

南の国の「ナデシコ」税理士

成功へのキセキ

第53回 弁護士への道のり～親バカ母さんの合格体験記～

ちゃんとお正月を味わうのは、なんだか久しぶりだなあ～。

今年の年末年始は、大型連休でしたが、我が家はどこにも出かけず、自宅でゴロゴロと寝正月でした。大晦日の夜から、予約しておいたおせち料理と鉄板焼き、そしてハマグリのお吸い物でニューイヤーイブ。NHK紅白歌合戦と、ダウンタウンの「絶対に笑ってはいけないレジャーハンター24時!」を行ったり来たりしながら、まったり過ごしていた時、ムスコがポツリともらしたひとこと。

そうだねー、と素っ気なく答えましたが、母は一人でコソソリと感動していました。

そうだね。

司法試験を受けると決めたのが、獣医学部5年生のお正月だったよね。

当時、彼の通っていた大学は北海道にあり、研究室ではマウスくんの観察係を担当していました。ガン細胞を植え付けたマウスくんは8時間おきに餌やり&クスリを投与し、経過観察するために、朝から晩まで研究室に入り浸りの生活です。一度でも間があくと、マウスくんは死んでしまうので、クスリの効果を確かめるために8時間以上の外出はできないからです。

そのため、夏休みも冬休みも帰省できないと言われ、それならば、と年末から3日まで、親の方が札幌のホテルに宿泊してお正月。一緒に法科大学院の受験用テキストを買いに行ったり、専門学校のパンフレットを取り寄せたりしたものこの時でした。

ずっと理系だった彼が、文系にシフトチェンジした大きな決断のとき。ホテルの部屋で遅くまで、初めて見る法律の本をむさぼるように読んでいたのが、その後始まる受験生活の始まりです。でもこの時は、司法試験がどれだけ大変なものか、親子ともどもじつは良く分かっていませんでした。

翌年は大学6年生。彼にとって勝負の年でした。獣医学部ゼミの卒論制作に加え6月には法科大学院全国統

一適性試験。8月に法科大学院の受験。年末には卒論発表。そして2月には獣医師国家試験。

とくに法科大学院の試験は、論文形式です。これまで小論文など書いたこともない彼にとっては、ハードルの高いものだったと思いますが、面接における情熱と獣医学部卒業（見込み）という経歴が評価されたのか、なんと奨学金をもらっての合格となりました。

そして、法科大学院時代の3年間が始まりました。法科大学院には、既習者コースと未修者コースがあり、既習者コースは2年間、未修者コースは3年間です。彼は、当然未修者コースを選択したのですが、入学して知ったのは、未修者コースといえど、周りは法学部出身者ばかり。「ホンモノ」未修生は、わずか数人しかいない中、法律のホノ字も知らない彼にとっては、いきなり周回遅れのスタートとなったのです。

それでも最初の1年間は、基本的な事柄を覚えればよかったので、何とかついていけましたが、2年目になると既習者コースの人たちと合流し、その知識量の差に圧倒される毎日だったようです。

そして、課題は知識の差だけではありませんでした。論文です。理系的思考と文系的思考がどう違うのか、うまく説明できませんが、どうやら司法試験で試されるのは論理的な思考過程のようなのです（当事者ではないので、あくまで想像ですが…）。

一方の理系は、まず仮定ありき。仮定どおりの結果が出るかどうか、あーでもない、こーでもないとして試行錯誤を積み重ねていくイメージで、大事なものは結果です。けれど法律の世界では結果よりも、その結論にいたるまでの論理展開の方に重点が置かれているような感じがしました。

知識はあるのに、点が取れない。司法試験の受験を通して、ムスコを苦しめたのは、思考回路のパラダイムチェンジだったようです。とはいえ、今さら小論文の書き方を勉強する時間はないよ。そんな時間があつたら、法律の勉強をしたい…。

この問題を克服するために、彼は模範解答をかたっぱし

◆筆者 原尚美 (はら なおみ) プロフィール

税理士。東京外国語大学卒業。TACの全日本答練(現:全国公開模試)「財務諸表論」「法人税法」で全国1位の成績を収め、税理士試験に合格。直後に出産。育児と両立させるため、1日3時間だけの会計事務所からスタートし、現在は全員女性のスタッフ約30名の規模にまで成長。一部上場企業の子会社やグローバル企業の日本子会社などをクライアントにもつ。ミャンマーに会計サービスの会社を設立し、海外進出支援にも力を入れている。著書に『小さな会社の総務・経理の仕事がわかる本』『小さな起業のファイナンス』(いずれもソーテック社)、『51の質問に答えるだけができる「事業計画書」のつくり方(日本実業出版社)』『トコトわかる株式会社のつくり方(新星出版社)』『世界一ラクにできる確定申告(技術評論社)』『一生食っていくための士業の営業術(中経出版)』など。その他、「経理ウーマン」「デイの経営と運営」など雑誌への寄稿や、商工会議所、中小企業投資育成株式会社、日本政策金融公庫などでの、セミナー実績も多数。

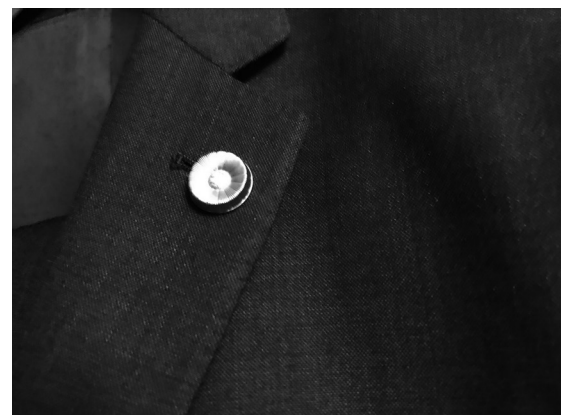
ら丸覚えし、論文の書き方を身体で覚えるという荒技で乗り切ったようです。

受験時代には、福岡の従姉妹や同じ年の従兄弟、高校や大学の同級生が、次つぎと結婚していきました。その都度、慣れないスーツに勉強道具一式を背負って結婚式に出席し、終わるとすぐに、ファミレスに直行し、一人受験勉強です。

家にいたらゲームやテレビに誘惑されちゃうからと、大学受験の時から、ファミレスは彼の勉強部屋でした。法科大学院時代のお正月も、家にいたら勉強する気分になれないと、除夜の鐘と同時にファミレスに出かけたものです。

努力の甲斐あって、ようやく司法試験に合格。しかしさすがに、文系最高峰の難関試験は、簡単には解放してはくれませんでした。10ヶ月の司法修習の最後には、司法修習生考試、通称「二回試験」という最後のボスキャラが待っているのです。万が一、この二回試験に合格できないと、せっかく決まった弁護士事務所に就職することもできません。さらに恐ろしいことに、この二回試験は年に一度しかチャンスがありません。もし落ちたら、翌年の司法修習が終わるまで、司法試験には受かったけれど…という、めっちゃ宙ぶらりんの状態になってしまうのです。

そんな訳で去年のお正月は、司法試験に受かって、全然平和ではありませんでした。年末ギリギリまで、埼玉県(和光市)で導入修習があり、年末30日に司法修習地である長野へ引越越し荷物搬送です。その後いったん東京に戻って、1月1日の夜には、また長野に出発するという



真新しい弁護士バッジ

あわただしい年末年始を過ごしたのです。

そして今年。弁護士として迎える初めてのお正月です。親にできることは、神さまに祈ることぐらいでしたが、ヒリヒリどきどきの数年間でした。ムスコながら、よく頑張ったと思います。

0か100しかないのが、資格試験の怖いところでもあり、良いところでもあります。トップ合格だろうと、ビリ合格だろうと、受かってしまえば、こっちのもの。いま受験中の皆さん。もしかして昨年の受験で実力を発揮できず、暗い新年を迎えた方もいらっしゃるかもしれません。

でも、信じて。頑張る。キミのことを、息もできなくらい心配して、応援している人がいるから。キミの努力は必ず報われるから。

好評
発売中

7人家族の主婦で
1日3時間しか使えなかった私が
知識ゼロから難関資格に合格した方法

原尚美 著 (中経出版) 1,300円+税

「アタマのいい人」と「勉強のできる人」は、違います。勉強のできる人は、点をとるコツを知っているだけなのです。本書は、本番で実力以上の力を発揮して、難関試験に合格するための、超合理的な、大人の勉強法について書いたものです。

7人家族の主婦で
1日3時間しか
使えなかった私が
知識ゼロから
難関資格に
合格した方法

合格率10%以下の
難関資格に
ストレートで合格した
驚異的なメソッド公開!

資格試験、数字暗記、再読法、
暗記法、など、どんな試験も必ず受かる!